

令和5年度事業計画書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

・春敬記念書道文庫収蔵品の展示及び貸出を行い、書道文化の普及を広く行う。

- (1) 令和4年4月29日(祭日)開催予定のかな書道作家協会主催の「第62回現代かな書道専門講座」において、5点貸出す予定である。

2. 書道に関する展覧会の実施（第5号事業関係）

- (1) 連合書道展、関東女流書展の実施

書道の奨励・育成を目的とした「第74回連合書道展 第37回関東女流書展」を令和5年9月1日(金)～9月8日(金)まで東京都美術館において開催する。連合書道展の参加団体は12団体になる予定である。関東女流書展の出品者は、昨年は183名であったがその増加を図る。両展併せての総点数は約700点前後となる予定である。また、例年好評を博している席上揮毫は、コロナ感染の状況次第で昨年に続き中止になる可能性もある。

第72回展より新たな試みとして企画した学生部展と都美術館講堂でおこなった講演会については今回も開催の予定である。

従来、連合書道展参加団体には出品点数を20点以上ということで依頼をしてきたが、近年の出品数の減少を踏まえ、15点以上に変更する。但し、その場合は一部屋単位のスペースを保証できないため、合同の部屋になることを了解するものとする。

3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

- (1) 平安書道研究会の実施

日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を、期間は令和5年4月(877回)～令和6年3月(888回)まで、東京国立博物館平成館講堂を主会場にして開催の予定。講師陣は、池田和臣先生(中央大学名誉教授)、笠嶋忠幸先生(出光美術館学芸課長)、高木厚人先生(大東文化大学教授・同書道研究所所長・かな書道作家)、名児耶明先生(筆の里工房副館長)、及び四辻秀紀先生(徳川美術館特任学芸顧問)の5名である。また、臨書指導は、石川昇玉先生、大賀晴苑先生、大林靖芳先生、慶徳紀子先生、佐藤芙蓉先生、佐野玉帆先生、鷹野理芳先生、高橋孝春先生、松井玉箏先生、渡辺貴彦先生等、日本書道美術院の先生方のみならず他団体からの先生方にも加わってもらうべく計画中である。

- (2) 日本書道史研究講座の実施

日本書道史を通史的、体系的に学ぶ日本書道史研究講座を令和5年4月～令和6年3月ま

で、東京国立博物館平成館講堂を主会場にして開催の予定。

令和5年5月には、第64期生（令和2年5月入学）4名が三か年の課程を終えて卒業の予定。卒業生には、特待生として引き続き留まってもらおうべく努力したい。なお、現在第67期の入学生を募集している。

(3) 臨書実技講習会の実施

今年度で7回目となる「臨書実技講習会」を令和5年秋に開催する。受講生の反応としては、普段の講習では聞けないような内容が少人数での個別指導などにより、忌憚なく質問でき有意義であるというもの。受講生の期待も高まっている。

(4) 平安書道研究会受講生への臨書作品募集と展示

平安書道研究会の受講生から臨書作品を募集し、令和4年度の第73回連合書道展で展示（出品18名）を行い、出品者からも観覧者からも好評であった。令和5年度は第6回として、実施する計画である。

4. その他

(1) 「講師の先生を囲む会」の実施

例年開催していた「講師の先生を囲む会」は、コロナ感染の状況を見ながら、今年の11月頃までには開催するか決定したい。

(2) ホームページの現状

令和2年6月よりホームページを立ち上げた。逐次、平安書道研究会の予告を行い、連合書道展に関しても開催予告及び事後報告を兼ねての情報を適宜アップし、受講生にも認知されつつある。現在のコロナの状況で、受講生への早期の連絡手段でもあり、今後とも必要な情報などを掲載し、重要なツールとして位置づけたい。

(了)